



令和3年

12月の園だより



すいこう認定こども園



餅つきの由来は、奈良時代の記録によると「伊勢神宮などに鏡餅が備えられている」と書かれています。餅を食べる習慣は、武家の年中行事が商家へと伝わり、商家から農家へ。農家では、神仏や農具に餅を供え、豊作と家内安全を祈ったそうです。

園では、8日にみ仏様にお供えするためにお餅つきをします。

今年は、係の皆さんのお手伝いを頂いて、開催することといたします。

ぱんだ組さんからつきたてのお餅を丸めます。詳細については、後日プリントを配布します。



お手伝いをさせよう



子どもたちは、お手伝いが大好きです。「ありがとう」「助かったよ」という言葉を聞くと、自分が認められたと思うのでしょう。二度手間になると思われるかもしれませんが、その子にできるお手伝いを見つけ、役に立つ喜びをしっかりと味あわせてあげてください。

園でも、子どもたちと一緒に年末の大掃除をします。



優しい子どもに育てるために

アメリカの大リーグで今シーズン大活躍をした大谷翔平選手。イチロー選手に次いで日本人二人目、しかも万票での MVP 獲得ということで、自分のことのように嬉しく思っていますが、ご本人は、いたって冷静で、受賞したその日もいつもと同じように過ごしていたようです。大谷選手は、プレーだけではなく、挨拶をするとか、ゴミを拾ってポケットに入れるなど日ごろの何気ない行動も賞賛されています。小さい頃に作成された目標達成シートには、そういった「挨拶をする」「ゴミを拾う」「道具を大切に使う」「感謝する」などが具体的に書かれており、毎日それを達成するよう努力しながら、野球に取り組んでいたのでしょう。当たり前のことが当たり前にできるようになるには、漠然と過ごすのではなく、一つ一つを大切なこととして意識して、過ごさねばならないのです。先日、グループ内研修でボトムアップ式の指導で観音高校サッカー部を全国大会まで導いたり、弱小チームだった安芸南高校サッカー部を県内ベスト8までに育てた畑喜美夫氏のお話を伺う機会がありました。その指導方法は、高校生たちの主体性を尊重して、練習メニューなど自分たちで決めて実践することで、さまざまなサッカー部のレベルアップを図った実績を持っておられます。その方が「一隅を照らす（いちくうをてらす）」という言葉大切にしていると言われました。「トイレの掃除でも部屋の片づけでもどんなことにも精いっぱい取り組むことが大切」と話されたのです。誰も注目しないようなことでも心を込めて、誠意をもって取り組むことが大きな成功につながるのです。今更ですが、そういう人間になりたいものです。また、子どもたちにもそういうことの大切さを伝えたいと思います。

さて、先月開催いたしました「すいこうわくわくランド」ですが、保護者の皆さんをお招きできず、とても残念でしたが、子どもたちは、いつものわくわくランドのように楽しく過ごしてくれました。特に年長さんは、自分たちで作ったオリンピック会場で年中さん、年少さんを楽しませてあげようと、一生懸命でした。卓球コーナーでは、ラケットの持ち方を教えてあげたり、そっと右手を添えてあげたりしていました。バスケットコーナーでは、ゴールからこぼれたボールを一

生懸命拾い、渡してあげる姿もありました。どの子ども小さいお友だちに楽しんでもらおうと思っていることが伝わってきました。日ごろの活動の中でも優しいなあと感じることがたくさんあります。通園バスでの出来事ですが、なかなか降りてこない Y 君。どうしたんだろうと近寄ると、隣に座っている年少の M ちゃんが眠っていました。「起こしても起きない。」と心配して降りなかったのです。年長さんは、もちろん自分たちのあそびもしっかり楽しんでいるのですが、側に小さな友だちがいるときは、さりげなく心を馳せてくれます。そんな優しい年長さんのことを小さな子どもたちみんな大好きです。

優しい年長さんの姿ですが、年長さんになったからと言って自然に優しくできるようになるわけではありません。優しい子に育てるためにはどうしたらよいのでしょうか。それは、優しく関わってあげることが何より必要です。小さい時から「かわいいね。」「いい子だね。」とたくさん抱っこをしたり、絵本を読んだり、一緒に遊んであげたりしながら「〇〇ちゃん、かわいいね。」「〇〇ちゃん、大好きだよ。」と、言葉をかけてあげ、少し大きくなった時には、失敗したり、間違っただけをしても「大丈夫。今度はどうしたらいいか考えようね。」と、否定したり、責めたりするのではなく、お子さんの思いを受け止め、優しく返してあげることが大切なのです。いつもぶつぶつ小言を言われ、「抱っこして。」と言っても「もう、お姉ちゃんでしょ。一人で歩けるよね。」などと抱っこをしてもらえなかったり、手をつないだ時の温かさを知らないまま育った子どもは、「自分は愛されているのか。」と、いつも小さな不安を抱えてしまうことでしょうか。自分の心が不安で、満たされていないのに、誰かに優しくなどできるわけがありません。子どもたちの小さな心が優しさでいっぱいになるよう、私たち大人は、いつもあたたかなまなざしをおくり、心を添わせていきましょう。

これから寒さも厳しくなり、年の瀬という事であわただしい日々を過ごされることでしょうか。真亀で過ごすのもあと2か月です。ご家族揃って楽しく新年を迎えられますことを願っています。

園長

子育てメッセージ

こころ

おかあさまは、おとなで大きいけれど、おかあさまのこころはちいさい。だって、おかあさまはいいました。ちいさいわたしでいっぱいだって。

わたしは子どもで小さいけれど、わたしのこころは大きい。だって、大きいおかあさまで、まだいっぱいにならないで、いろんなことをおもうから。

金子みすずさんの詩より



《年越しに食べるもの》

年越しそばは、江戸時代ごろから食べられていました。その由来については、さまざまな説があります。

- そばの実が三角形なので、邪気を払う
- そばは、細くて長いので長寿になるように

などがあります。また、地域によっては、年越しにうどんや、さげやぶりなどの年取り魚を食べる風習があります。